

日銀短観 (2017年6月調査) の概要

景況感改善 幅広く

日本銀行が7月3日に発表した2017年6月（回答期間：2017年5月31日～2017年6月30日）の全国企業短期経済観測調査（短観）では、大企業・中小企業ともに業況改善を維持し、幅広い業種で業況感の改善が進んでいる様子がうかがえました。一方で、中小企業を中心に人手不足が深刻であること、また、原材料価格や海外経済の先行きへの懸念等から、先行きに関してはなお不透明感が残るようです。以下、概要です。

- ① 大企業製造業の業況判断指数（D I）はプラス17となり、前回調査からの上昇幅は5ポイントで3期連続の改善（図表1、2）。2008年のリーマン・ショック以降で最高となった。海外政治への不透明感もやや和らぎ、経営者の姿勢が前向きになっているものとみられる。
- ② 大企業非製造業は、プラス23と前回から3ポイント上昇し、2期連続で改善（図表1）。都市部を中心とした再開発需要や、訪日客を含めた消費の回復により建設や小売りを中心に改善となった。
- ③ 中小企業にも景況感の改善が広がっている（図表1、2）。製造業D Iはプラス7と、前回から2ポイント改善し、2007年3月以来の高水準。建設業や宿泊・飲食サービスの業況改善が目立つ。緩和的な資金調達環境が後押しする。
- ④ 雇用人員判断D I（雇用人員「過剰」－「不足」、ポイント）は大企業全産業でマイナス16となり、1992年2月以来の水準となった。中小企業を中心に、先行きはさらに大幅な不足が見込まれている（図表3）。

図表1：業況判断D I（2017年6月）

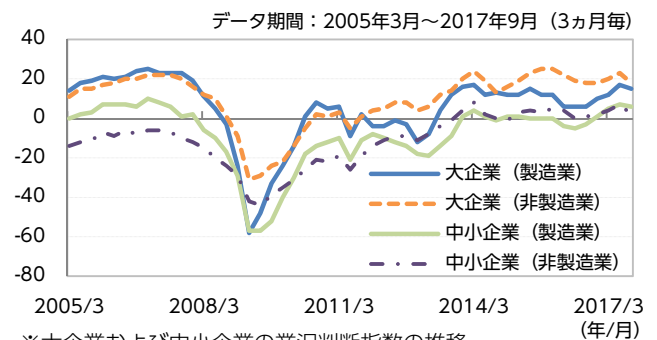
（「良い」－「悪い」、ポイント）

		2017年3月調査		2017年6月調査			
		最近	最近	最近		先行き	先行き
				変化幅 (*1)	変化幅 (*2)		
大企業	製造業	12	17	5	15	-2	
	非製造業	20	23	3	18	-5	
	全産業	16	20	4	16	-4	
中堅企業	製造業	11	12	1	11	-1	
	非製造業	17	18	1	12	-6	
	全産業	15	16	1	11	-5	
中小企業	製造業	5	7	2	6	-1	
	非製造業	4	7	3	2	-5	
	全産業	5	7	2	4	-3	

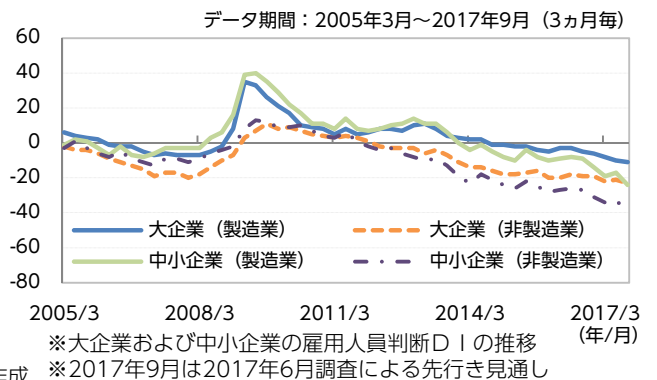
(*1) 2017年3月調査比 (*2) 2017年6月（最近）比

出所：図表1～3は日銀短観データを基にニッセイアセットマネジメント作成

図表2：景況感は改善傾向にあるも先行きは慎重姿勢



図表3：大企業・中小企業ともに人手不足が深刻に



【参考レポート】 日銀短観 (2017年3月調査) の概要 (当社金融市場NOW 2017年4月5日号)

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号
加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会